

若手による研究基盤の实地調査 第2弾

・目的

若手ネットワークのメンバーと機関の研究基盤に関わる人材が現場視察を通じて連携し、現場レベルでの実情や課題から政策に繋がるきっかけ作りを行う。また、人的な交流を通して将来の組織運営・連携に繋がる機関を超えたネットワークを形成する。

・日程

2024年9月4日(水) 午後 (施設見学:13時30～15時00分 意見交換会:15時15分～17時30分)

・場所

広島大学東広島キャンパス

・参加者(若手ネットワーク)

江口 奈緒、友定 良太、中野 知佑、服部 崇哉

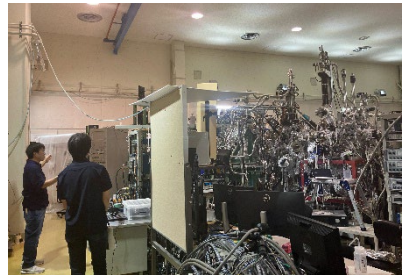
・内容

【施設見学】(見学順)

1. 放射光科学研究所 (HiSOR)

有田 将司 技術専門職員

後藤 公德 技術専門職員



2. 自然科学研究支援開発センター 総合実験支援・研究部門 低温実験部

梅尾 和則准教授

萩岡 光浩技術専門職員



【意見交換会】

場所：広島大学東広島キャンパス 法人本部 2階会議室、オンライン併用（Zoom）

進行：江口

参加者（現地）：大門、末弘、有田、萩岡（広島大学）、江口、友定、中野、服部（若手 NW）

参加者（オンライン）：植原、川谷、木戸、廣瀬、松本（香）、松本（尊）（若手 NW）

0. 自己紹介 各1分程度

1. 若手ネットワークについて（江口）

2. 各大学の取り組みについて（参加者それぞれの業務内容、課題や問題意識を共有）（広島大学 大門+若手ネットワーク 江口、松本）

3. 意見交換

4. 締め



（概要）

若手ネットワークの江口より、本ネットワークの紹介を行った。その後、広島大学 大門主査、および若手 NW の江口、松本より以下の発表が行われた。

- ・広島大学 取組説明（大門）
- ・大阪大学コアファシリティ機構の取組紹介（江口）
- ・液体ヘリウム供給拠点構想（松本）

その後の意見交換では各大学の機器共用について現場が感じる実務レベルの課題が多く挙げられ、それに対し課題解決のヒントとして他大学の参加者より事例紹介があった。また技術職員からの J-PEAKS に対する所感、自身が関わる教員の研究時間の減少について言及があった他、岡山大学の液体ヘリウム供給拠点構想に対して同地域である広島大学の現場職員から現場の状況と共に所感が述べられた。全体を通じて複数の大学関係者の意見交換によって実務上のノウハウ共有や複数の大学で共通する課題を認識することができた。

【本活動における所感】

見学にて共々拠点である放射光科学研究所、基盤的な設備である自然科学研究支援開発センターの低温実験部と学内での役割の異なる二つの拠点でそれぞれ業務に従事する現場の技術職員、教員から設備の特色や業務の状況を知ることができた。特に放射光科学研究所は施設の中でのほとんどの設備が手作りの、まさしく特色ある設備であり技術職員も唯一無二のスキルを持っていると認識できた。その一方で設備の唯一性ゆえの技術継承の難しさも感じ取れ、特色ある設備特有の課題を知ることができた。

見学・意見交換を通して、広島大学の情報を聞くだけでなく広島大学から提示された課題に対して若手NW側から所属する機関の事例紹介という形での解決策の提示も盛んに行われたことは双方にとって有意義だったと感じた。このように機関を超えた情報共有の場を作り、今後の人的なネットワークの礎を作れたことは本視察において大きな成果であった。また、実務レベルの隠れた課題を外部の視点によって浮き彫りにできたことも成果であり、このような課題を協議会の政策提言などを通じて大学執行部に届けていくことが必要であると感じた。

【今後の活動について】

今回の見学や意見交換で現場の声から拾うことのできた課題はいずれも実務レベルの課題であり、それについて複数の機関の実務者で情報共有を行えたのは所感にも述べた通り有意義だったと感じた。そもそも実務上の課題の共有や意見交換の場があまりないという意見もあり、この視察を多機関の現場の人材の交流の場ともしていくことでますます双方にとって良い取り組みになることが期待できる。

【今後の視察における注目点】

- ・現場レベルの隠れた課題の発見
- ・機関を超えた交流から生まれる課題・ノウハウ共有

【提言につながるキーワード】

共用システム運用のノウハウ共有、高額な設備の更新